



South Experience (チーム・ティン・プライズ)
 建築家・東京大学教授
 隈研吾さん
 建築家、東京大学教授
 隈研吾さんは、建築の環境評価を考慮し
 「海外の地産地消を活用します。日本
 で、積極的に地域資源を活用すれば」
 の趣旨も、もう少し考慮するようになれば」

上ノシンポジウムに先立ち行われた間伐・間
 伐材利用コンクール「GTF Green Challenge
 AWARDS2014」の表彰式。下ノ製品づくり
 利用部門で林野庁長官賞を受賞した「Dのき
 の畳床」(社会福祉法人アンサンブル会)。畳
 床にビノキの間伐材のウッドワール(糸状に
 加工したもの)を活用しており、「和」のシンボ
 ルである畳にも国産材利用がはじまっている。



都市での木づかい。

地方とつながるために。世界に「日本」を発信するために。
 国産材の活用から、どんな日本の未来を描くことができるのか。1964年の東京オリンピック開会式の日から
 ちょうど50年の2014年の10月10日、都内にて「木づかい推進月間2014記念『2020年の木づかいシンポジウム』
 建築家と語る、都市建築物での木材利用の未来〜」(主催:国土緑化推進機構、全国木材組合連合会、共催:活木活用森ネットワーク)が開催された。

photographs by Masaya Tanaka text by Reiko Hisashima



日本の木を活かす
 技術と文化は
 世界一

隈研吾さん
 建築家、東京大学教授
 隈研吾さんは、建築の環境評価を考慮し
 「海外の地産地消を活用します。日本
 で、積極的に地域資源を活用すれば」
 の趣旨も、もう少し考慮するようになれば」



山梨知彦さん
 建築家、日建設計 設計部門代表
 「日本人が木を好きなのは、DNAの問題でな
 く木が身の回りにあったから。次世代にその
 感性を残すために、今こそ木を使うべき」

オリンピックでは
 日本の木で
 「おもてなし」を!



山田敏博さん
 建築家、HUG代表、NPOチーム・ティン・プライズ理事
 「『建築』に対して、設計者や工務店といっ
 たプロだけではなく、一般の人参加してい
 くべき。木なら、それができます」

2020年を契機に
 新たに
 木造都市を!



小島孝文さん
 林野庁木材産業課長
 「利用期を迎えた森林や、それを使うための
 法律など、環境は整っています。今こそ都
 道で木材を使用すべき」

建築の主役を
 木材に!
 木づかいで地方創生!